

厚生文教委員会報告書

平成26年12月10日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 鵜 川 晃 匠

平成26年12月10日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第111号 備前市学校教育振興基金条例の制定について	原案可決	なし

<所管事務調査>

- 教育用 I C T 機器（電子黒板等）の導入について
- 学力向上について
- 学校支援地域本部事業について
- 体育施設の部活利用と老朽化について

<報告事項>

- 教育用タブレットの納入について（教育総務課）
- 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について（学校教育課）
- 備前♡日生大橋マラソンについて（生涯学習課）
- 岡山シンフォニーホールとの包括連携協定締結について（公民館活動課）
- 自治公民館等合併浄化槽設置補助金について（公民館活動課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第111号の審査	2
報告事項	3
所管事務調査	7
閉会	14

厚生文教委員会記録

招集日時	平成26年12月10日(水)		予算決算審査委員会 厚生文教分科会閉会后	
開議・閉議	午後2時00分	開会 ~	午後3時02分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中(第6回定例会)の開催		
出席委員	委員長	鶴川晃匠	副委員長	星野和也
	委員	橋本逸夫		津島 誠
		守井秀龍		立川 茂
		石原和人		森本洋子
欠席委員	なし			
遅参委員	なし			
早退委員	なし			
列席者等	議長	田口健作		
傍聴者	議員	なし		
	報道	なし		
	一般	なし		
説明員	教育長	小林清子	教育次長	末長章彦
	教育総務課長	植田明彦	学校教育課長	小郷康弘
	生涯学習課長	田原義大	公民館活動課長	山台智子
審査記録	次のとおり			

午後 2時00分 開会

○**鶴川委員長** ただいまの御出席は8名です。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日の委員会は、教育委員会関係の議案審査、所管事務調査を行います。

なお、議案審査に先立ち、1件御報告いたします。

さきの10月臨時会閉会後に開催された委員会において、頑張る学校応援事業に対する橋本委員の御質疑で、備前中学校の指導方針等についての資料要求がございましたので、教育委員会より提出をいただいております。配付の機会がございませんでしたので、本日、お手元にお配りしております。よろしくお願いをいたします。

それでは直ちに、本委員会に付託された議案の審査を行います。

***** 議案第111号 *****

議案第111号備前市学校教育振興基金条例の制定についての審査を行います。

議案書の68、69ページをごらんください。

議案全体で審査を行います。御質疑ございませんか。

○**星野副委員長** 第1条の教育課題の解決に努力している学校の取り組みを応援するという文言がありますが、これだと市内全ての学校が該当するんじゃないですか。それでいいんでしょうか。

○**小郷学校教育課長** これにつきましては、いわゆるこの基金設置のもとになりました県の頑張る学校応援事業の趣旨に沿った内容ということでこういう表記をさせていただいております。来年度以降、備前中学校同様に優良実践校に選ばれた場合、この基金の活用を想定しております。

○**橋本委員** このたび備前中がもらう100万円、この基金にはその100万円は入れないと。来年度以降にももらうやつを入れるということですか。

○**小郷学校教育課長** 説明が不十分で申しわけありませんでした。本年度、備前中の応援費については、当然、この補正予算の歳入で御審査いただいたように、この100万円を基金に入れます。それから、来年度以降も、備前中以外の学校についても同様にということでございます。

○**鶴川委員長** ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、議案第111号備前市学校教育振興基金条例の制定についての質疑を終結してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、議案第111号についての質疑を終結いたします。

これより議案第111号を採決いたします。

本案は原案のとおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、議案第111号は原案のとおり可決されました。

これをもちまして議案第111号の審査を終了いたします。

次に、報告事項に入ります。

○植田教育総務課長 先ほども指摘がありまして、御報告がおくれて申しわけありません。

教育総務課のほうから、教育用タブレット納入についての御報告をさせていただきます。

10月の臨時議会で財産取得の議決をいただき、契約をいたしました教育用タブレットパソコンが、11月26、27日に全中学校に納入されました。これを受けまして、12月5日、伊里中学校において、タブレットの貸与式を行っております。また、小学校には、昨日の9日から12日にかけて搬入されまして、これで全ての納入が完了する予定でありますので報告をさせていただきます。

○小郷学校教育課長 学校教育課から1点。平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の概要を報告いたします。

お手元の資料をごらんください。

毎年、国の悉皆調査としてこの調査が実施されております。調査の種目でございますとか概要は、1、調査の実施の部分をごらんください。今回から、全国学力・学習状況調査と同様に、県教育委員会において、市町村別結果の公表が可能になり、11月30日付の新聞等で既に報道をされております。備前市につきましては、得点の平均では、小・中学校の男女とも全て全国平均を上回っている状況にあります。

裏面をごらんください。

種目ごとの、これが平均値でございます。黒い三角が立っておりますところが全国平均よりも下回っている部分でございます。一番下に簡単にコメントをつけております。小学校、中学校の男女とも、上体起こし、反復横跳び、50メートル走は全国の平均値を上回っている。逆に、中学校においては、男女ともに20メートルシャトルランは全国平均値を下回っている。こういう状況が見られました。

また、学校外の運動時間等についての、いわゆる意識調査も実施をしております。これによりますと、土日の運動時間と1週間の総運動時間数の質問につきましては、小学校の女子は1週間の総運動時間の平均値が全国より高いという傾向が見られ、逆に、小学校男子及び中学校男子は、この平均値が全国よりも低いといったような傾向が見られました。

報告は以上でございます。

○田原生涯学習課長 生涯学習課から報告させていただきます。

お手元に配付いたしました備前♡日生大橋マラソン大会をごらんください。

参加者の募集を開始しております。申込期間は11月25日から3月2日、なおネットでの申し込みは3月11日までとしております。

表紙のデザインについては、日生中学校の中本香子さん、こちらのデザイン原画を使わせていただいております。ポスター等にもこれを使う予定でおります。また、表紙については、日生中学校全校生徒から募集して選定をしております。

この大会については、定員を1,000人といたしておりまして、中の見開きを開いていただきますと、3キロと10キロ、車椅子、ペアの各定員で募集をかけております。現在の申し込み状況ですが、インターネットでの申し込みが81名、郵便振替での申し込みが42名で123名となっております。コース別には、10キロで112人、3キロで5名、ペアで3組6人の方の申し込みがあります。年齢層に関しましては、現在のところ、8歳から81歳までとなっております。また、申し込みをされた方ですが、岡山県の方が94名、広島が1名、香川が5名、兵庫が23名となっております。今後、市内でのマラソン大会であるとか、スポーツのイベント等でPRして、募集をさらに行っていきたいと思います。

○山台公民館活動課長 それでは、2点報告をさせていただきます。

まず1点目は、平成26年11月26日に、岡山県下の自治体として初めて、公益財団法人岡山シンフォニーホールと包括連携協定を締結しましたので、その御報告です。これは音楽を通じたまちづくりで協力するため、協定を結ばせていただいたもので、その連携、協力の内容は、次の4項目とさせていただきます。

地域の音楽、文化活動の向上及び推進に関する事項。質の高い音楽、文化に触れることを通じた子供の発想力及びコミュニケーション能力の育成に関する事項。地域連携並びに地域貢献の推進及び発展に関する事項。その他、目的に資する事項という4点です。

今後、この協定に基づき、岡山シンフォニーホールが運営する岡山フィルハーモニック管弦楽団の奏者による小・中学校への出前授業や、公民館でのコンサート、市民センターホール等での市内音楽家との共演などを積極的に取り組み、市民の皆様が生演奏に触れる機会を多く提供したいと思っています。さらに、こうした音楽、文化活動を通じて、心豊かな生活と活力ある地域社会の実現を目指したいと考えております。

次に、2点目です。平成25年11月議会で一般質問を受け、検討していた自治公民館等の合併浄化槽設置の際の補助金についてでございます。

これは、自治公民館及び集会所等の水洗化を実施する際、下水道区域内であれば、直接下水道へ接続できますけれども、区域外にあるものは、合併浄化槽を設置しなければならず、別途費用が必要となります。公民館活動課が実施している施設整備事業補助金の補助率が5分の2であり、下水道課の占有住宅に対する浄化槽設置整備事業補助金との差がついているため、整合性をとってほしいと要望されていたものです。

公民館活動課と下水道課で協議を重ねてまいりました結果、下水道課の備前市浄化槽設置整備事業補助金交付要綱の補助対象者に、自治公民館及び集会所等施設を加えた改正を行い、27年度より、下水道課が浄化槽設置補助金により一般住宅と同様に対応することとなりますことを報告させていただきます。

これを受け、次年度に合併浄化槽設置を希望する自治公民館を募りましたところ、今のところ、自治公民館より1件の要望がございました。

○鶴川委員長 報告が終わりました。

これまでの報告事項で、御質疑があればお受けをいたします。

○橋本委員 備前日生大橋のマラソン大会の件なんですけれども、先ほど説明がありました、定員を1,000名ということで相当見込んでおられますが、こういうイベントの運営に際しては、相当な運営ボランティアが必要だと聞いておるんですが、そのあたりの募集に関しては、手抜きなく行う予定になっておりますか。

○田原生涯学習課長 大会ボランティアの関係ですが、現在、この大会については、実行委員会形式でやっております。婦人会さん、商工会さんとも話をしながらやっています。それと、体育協会、あるいはスポーツ推進委員さん、これから市職員へのお願いであるとか、地域のボランティアの方等については、募集等をしていきたいと思っております。

○橋本委員 できるだけ多くの方にこのイベントに参加なり協力をいただいて、盛り上げていくことが肝要ではないかなと。そうした場合に、いろんな団体だけにボランティアを出してくださいというお願いするよりも、例えば市のホームページを使ったり、チラシを使ったり、広報紙を使ったりして、運営ボランティアを募集しとるんだということで、できるだけ多くの方を引き込むというふうにしていきたいなと思うんですが、いかがでしょうか。

○田原生涯学習課長 仰せのとおり、広報なりホームページ等で呼びかけて、スポーツボランティアというのが今言われております。そういった形で、できるだけ皆さんもまちづくりにかかわる、そういったスポーツイベントにかかわっていただくように募集をしていきたいと思っております。

○橋本委員 もう一点、備前市には歴史あるえびす駅伝を久々井の運動公園でやっている。私は、これが合併10周年、あるいは架橋完成記念事業ということで、単発で終わるのではなく、できれば恒例の事業にさせていただくのが地域の活性化にもつながるんじゃないかなというふうに思うんですが、これは恐らく次年度の事業ですので、参加費は取るものの、かなりの予算を計上してやられるということなんでしょうか。私はできるだけ、そんなにたくさん金をかけんでもいいから、継続的にやっていただけたらありがたいなと思うんですが、その点、教育委員会ではどういうふうにとらえますか。教育長の存念をちょっとお伺いしたいんですけれども。

○小林教育長 建設的な御意見をいろいろありがとうございます。本当に、待ちに待った架橋を記念する、あるいは10周年を記念するというので、今回は完成記念事業として実行委員会形式でやらせていただいております。一応やった後の協議ということになるかと思うんですが、気持ち的には委員さんがおっしゃったように、一つのイベント、ただ単発ではなくて、継続的な活動になるといいなというふうに思っております。

○橋本委員 ぜひ市長にも、教育長のほうから、単発で終わらさずずっと続けてやりましようよということを進言いただきたいと思いますが、いかがでしょう。

○小林教育長 4月11日の事業がどのように盛り上がるか。まず、そこの実績も大事かと思っておりますので、皆さん、よろしく御協力をいただきますように、御意見ありがとうございました。

○守井委員 先ほどの公民館の浄化槽の話なんですけど、ちなみに、下水道の補助金を概略でわかれば教えていただきたいと思うんですけども。

○山台公民館活動課長 冒頭に申し上げたんですけれども、下水道課の考え方というのは、公共下水道区域と区域外の差をなくすようにということで、補助金率は非常に上がっていると思います。1年前に大西議員さんからいただいた御質問にもあったと思うんですけれども、50万円で執行した場合に、その50万円について、下水道の補助金であれば50万円になるよと。公民館活動課の補助金、5分の2でするのであれば20万円になりますよと。そのさが30万円あるということでの整合性をという御意見だったと思います。下水道課につきましては、さっき申し上げましたように、公共下水道区域と区域外の差をなくすために、高い補助金になってるということで、そちらのほうに合わせた形の補助金になろうかと思えます。

○津島委員 年明けたら、いよいよタブレットが導入されるんですけど、テーブルタップでぎょうさんタコ足配線して、子供らがふざけて足をひっかけて転んでけがをしたり、またタブレット用の下げ袋を親に縫わせよらしいが、それをかけとって、落として破損したり、また先生が厳重に教室の鍵をかける前に、他人のやつをちょっと失敬したりすることがあるかもしれませんから、その点はよう気をつけて、市長になるべく早う、鍵つき充電保管庫を買うてもらうように、教育長、要望したらいかがでしょうか。

○小林教育長 おっしゃるとおり、本当にタコ足配線に限らず、新たなものを導入する際には、その取り扱いについてきちんと指導し、それについて子供たちもマナー、ルールを守るということは、あわせて教育しなければならないと思っております。御指摘ありがとうございます。

それから、充電保管庫につきましては、おっしゃるとおり、保管はしやすいというメリットはあると思います。予算要求をしていけということですよ。要求は継続して、これからも考えていきたいと思えます。ありがとうございました。

○津島委員 鍵つき充電保管庫は、タブレットと同時導入せにゃおかしいと思う。保管じゃから。それを、まだ買っていない言うけど、その鍵つき充電保管庫の配線図を、あしたでもええから私に見せてください。どういう配線になつとるか。危ねえか危のうねえかというの。それは手元へあるはずじゃ。

○末長教育次長 導入を計画しておりました充電保管庫でございますが、これは一度に10台収納できるもの、20台収納できるもの、30台収納できるものというのがあるんですけども、基本的には鍵もつく保管庫です。その保管庫のちょうど裏側にテーブルタップを集約できるものがありまして、そこにテーブルタップ、ちょうど規格に合ったテーブルタップを張りつけると、各ACアダプターをつけたタブレットをつなげられる。そういう形のものでした。ですから、それには配線図というものはありませんでした。

○津島委員 テーブルタップを使うたら、必ずタコ足配線になろう。

○末長教育次長 タップ部分が複数になっていて、それを全部一つのところに集約して電源から引っ張り込むということになります。

○津島委員 その設計図があるはずじゃ。ないんか、そんなのは。普通の電源から引けるんじやろ。あした、見せてくれりゃええんじや。

○植田教育総務課長 カタログになりますがお持ちします。

○鵜川委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、報告事項を終わります。

***** 所管事務調査 *****

次に、所管事務調査に入ります。

○石原委員 今後のこともありますので、今回予算計上されました電子黒板、3,000万円余りの税金が投入されるわけですので、どのような流れで、経緯、経過を経て、このたびの提案に至ったのかというところを、どういう会議で提案がなされて、検討がなされて今回に至ったかというところをお教えいただければと思います。よろしくお願いします。

○末長教育次長 経緯についてでございますが、まず先ほども申しましたように、タブレットを導入するという段階で、既にその関連の電子機器としての電子黒板というのありました。ただ余りに、もともと電子黒板、本当の電子黒板であれば非常に高価です。それが、今技術の進歩もございまして、プロジェクター型でかなり安価になって、さらに双方向の機能も付与されたものが出てきたという事実がございまして、それが6月の段階では、通信機能をつけることに特化しましたので、それは要求しませんでした。9月、10月の段階でやっとリースの契約ができ、リース期間が1月からということになったので、そこで3カ月分、平成26年の月数でいうたら3カ月分のあきができました。その分を活用してということで、本来、保管庫を教育委員会側では要求をさせていただきました。充電保管庫のまずは要求ということだったんですけども、査定等をやる中で、タブレットの機能を十分に発揮できるようにするには、保管庫よりも先に電子黒板だろうということから、急遽、電子黒板にかじを切り直したというのが経緯でございます。

学校のほうも、電子黒板のほうがいいという意見は、ずっと前からあるにはあったということ、をさきほどの教育長の話にもあったと思います。液晶テレビ購入の段階でもそういうのがあった。ですから、学校現場では、下地としては電子黒板というものの活用という意義は皆さん知つとられた。ただ我々が、そのことについてこの時期に相談をかけていないというのも事実でございます。

経緯としては以上であります。

○鵜川委員長 ほかにございませんか。

○橋本委員 まず、学力向上についてですが、ことし、小学校、中学校の学力の岡山県下5位以内が早くも中学校の3年生の分は、全国の一斉の学力テストにおいて岡山県下で公表されている市町村の中ではトップに躍り出たということで、大変これ自体喜ばしいことなんですけれども、そういったことや、それから岡山県が実施している頑張る学校応援の事業ということで、これも備前中がめでたくそれに選ばれたということで、100万円もいただきました。どうもええことづくめで、学力向上のことが余り声高に言われんようになったんじゃないかなということで若干危惧をしております。これをやはり維持していく、あるいは小学校の部でも岡山県下の5位以内

ぐらいを目指さなきゃならんということは、ますます拍車をかけて努力をせなきゃならんのではないかなと思ひよんですけれども、その点、まず基本的なことを、教育長の存念をお伺いいたします。

○小林教育長 学力をつけていくというのは学校の責務ですので、本当に基本的な力をどの子にもということとは恒常的に考えていかなければならないと思います。何位以内ということについては、相対評価ですので、みんなが上がればそこも上がるという、順位ということについては、何位という限定をかけることは、本当に子供たちそのものの学びにつながるのかというあたりは疑問でございますが、教育委員会としましては、学校の子供たちの背景、実態、それぞれの取り組みを応援してまいりたいというふうに思っております。

○橋本委員 そういった中で、漠然と頑張れ頑張れということじゃなくて、ある程度の目標値を設定して、それも備前市をリードする備前市長がそのように議会答弁をしてそうやりたいんだということと言われたわけですから、できるだけ我々も協力をしたいと思う中で、例えばまなび塾がまた年度がわりを迎えようとしております。25年度から26年度にかけて、年度がわりで2カ月前後ですか、まなび塾が全然開催されないというような事態を迎えました。春休みなんかを有効に利用するという点に関しては、極めてもったいないなど。私は、26年度の予算措置でもって、年度がわり、当初突っ張るんか、あるいはとにかくいろんなことを考えて、余りブランクのないような形でやっていただきたいと思うんですけれども、その点、教育委員会のほうは抜かりなく準備をされよろますか。

○小郷学校教育課長 本年度、開始については5月中の開始ということで、昨年度よりも早期に開始いたしました。その旨、昨年度でございますか、橋本委員から御提言をいただいたところですけれども、現実的に、年度終わりと年度初めの時期で、支援者の方が、例えば前申しましたように、就職の時期に重なるとか、いろんなところで、年度初め、年度終わりのところが無関係でなかなか支援をやっていただける方というのも、そのあたりのところもちよっと課題があると思っております。ですから、第2回の支援者の方の連絡会のところで、例えばざっと3月とかどの程度そういうことを御協力いただくのが可能なのか、検討はしてまいりますけれども、今現段階ではちょっと難しいのではないかなというふうに思っている次第です。

○橋本委員 年度がわりにあれだけの長期のブランクがあったのは、支援員の体制が整ってないからだというふうに、今理由づけをされましたが、私は決してそうじゃない。あくまでも教育委員会サイドの理由だったんじゃないかなと。年度が変わるときのいろいろなこと。ボランティアの支援員は、いつでも呼ばれば行きますよというぐらいの体制を持つとるんですけれども、できんようにできんように考えよんのは、私は教育委員会じゃないかなと思うんです。教育長、私はやはり春休みというのは前の学年の復習をするのに大切な時期じゃないかなと思います。その間に長いことブランクをあけるというようなことはもったいないと思うんです。できるだけそのブランクを最小限にするように、私は努力をしていただきたいと思うんですが、再度、御答弁をいただきたい。

○**小林教育長** 先ほど、課長も申しあげましたように、物理的な課題があるのか、それともそのまま続けることができるのか。多分その地域の子供や支援員の数等々の事情にもよるものだと思います。その辺よく精査しまして、できるだけ早い時期に、また遅い時期までできるという方向で検討ができたというふうに思います。

○**橋本委員** 次に、生涯学習課に移るんですけども、これ縦割り行政ですからしょうがないです。学校支援地域本部事業でそれぞれが活動されておりますが、我々厚生文教委員会でせんだって東京都葛飾区を視察して、大変先進的な取り組みを見てきました。私はそういう意味では、市内の学校支援地域本部の活動がまだまだ不十分ではないかなというふうに感じております。生涯学習課のほうで、あちこちの学校、例えば日生中学校や吉永中学校に対して、その設立を呼びかけてみたり、あるいは既に立ち上がってはいるものの、学習支援の項目がない本部もありますし、あってもそれが十分機能してない部分もあると思います。そういったことをもっと積極的にやるべきじゃないかなと思うんですが、生涯学習課長の御存念をお聞かせください。

○**田原生涯学習課長** 日生中学校であるとか吉永中学校、これも毎年要望というような形で訪問はさせていただいております。ただそれぞれの学校で、それにかわるような形での取り組みを実施しているということで、実施には至っていませんが、今後とも、そのメリットというんですか、そのあたりをこちらのほうから提案しまして、お願いしてまいりたいと思います。

○**橋本委員** 実際に、日生中、あるいは吉永中でも、それなりのことをやりよんですけども、本格的な予算措置がつく学校支援地域本部の活動ではないんで、もったいないんです。別に、予算の枠があつて、もうこれ以上はだめだということじゃない、正式に申し込みをすれば、それに対してコーディネーターあたりにも予算措置ができるし、それから有償のボランティアという方にも予算措置ができるし、教材だって買うときに補助金がもらえるというようなことで、その事業に乗っかるのは、いいことづくめだと思うんです。何でそれを学校サイドが敬遠するのかよくわからんです。例えば、課長が言うていってもなかなか難しいんだったら、例えば教育長が直接乗り出して行って、その学校に対して、こういうええ事業をやってくださいよということを勧めるということはいかがでしょうか、教育長。

○**小林教育長** 学校支援地域本部につきましては、基本的には学校の要望に応じて支援をしていただくということになっております。学校で何に重点を置き、何が一番支援を必要としているかによって、計画を立てて、こういうことで支援をしてほしい。学校の先生方が一番支援をしてほしいのは、多分環境整備、本務の自分たちが学力をつけるために授業に専念するために、ほかの人にはかわってもらえない自分の本務に専念したいと。そのために、環境整備、草を抜くとか落葉を拾うとか、掃除をするとか、そんなことに学校の先生の労力を使うよりは、自分の本務に専念したいと、そういうときに、地域の人にお助けいただけると大変ありがたいと。それぞれの学校の事情に応じて、こういう方面で支援をしていただきたいというふうに、学校のほうから支援の量と質をお願いする、それに地域の方がサポートしてくださるというのが基本的なスタイルだと思われまふ。教育委員会のほうから、こんなことしなさいと、それからあるいは支援者のほ

うから、こんなこととしてはどうかと、提案はできるかと思いますが、そうしなさいという趣旨のものではないと思います。それが、学校がやりたい、特色ある学校づくりの中に地域の方の力をかりたいという、そういう事業の趣旨だろうというふうに考えております。

○橋本委員 教育長、何も教育委員会が命令をせえとかということじゃなくて、こういう制度があるんだから、これを使ったら予算もいただくことができるし、補助金だってもらえるよと。だから、より効果的にできるんじゃないですかと。それから、今の環境整備で、草むしりとかなんとかいろいろなこと、PTAのほうで結構やっていますよ。だから、先生が余り大きな負担にならないようになるとは思いますが、学習支援のほうも、できる子、中くらいの子、できない子、そういった全てのランクに合わせた授業なんてのは、今とてもじゃないできないんです。だから、おくれつつある子に対して、ボランティアの支援員を呼んできて、それでその子たちにわかるような形で教えていくというようなことも必要なんです。それらを全部見ようとするから、教員が物すごくオーバーワークになるんです。私は教員のオーバーワークをこの委員会でも取り上げているように、教員ももっと早く帰宅せにゃあかんです。勤務時間が長過ぎるんです。かわいそうではない。だから、それがためには、地域のそういう力をもっと活用してくださいよということを私は言うтонです。教育長も、やはり学校に行ったら、もっと地域の力を活用して、先生もう少し手を抜くことを考えてくださいというぐらいのことを、私は勧めてほしいと思います。いかがでしょうか。

○小林教育長 参考にさせていただきます。ありがとうございました。

○鶴川委員長 学校支援地域本部の件について、橋本委員は個人的にぜひやったらいいということです。これは、委員長として申し上げるんですけど、報告会でも、特に吉永の報告会で、いろいろ地域から質問があったりして、学校は何もしてねえんじゃねえかというようなとり方をされたというようなことがあったりしたんで、この件について学校の現場からの要望があればというような教育長の話ですので、私もぜひこれは、委員の皆さんにお聞きして、教育委員会として学校側へ指導ができるんだから、教育委員会のほうへ指導してもらえるような方向で、要望したらどうかと思うんですけども。

○橋本委員 決議までする必要はない。

○鶴川委員長 決議じゃなしに、そういう要望として。

○橋本委員 こういう要望を出しとけば、教育長がちゃんと伝えてくださると私は信じておりますんで。

○守井委員 それぞれの学校の事情があって、学校支援地域本部というのが立ち上がったという経過があって、今さっきも言いましたように、実態はもう整っておるわけですから、それは学校に任せるようにしたらいいと思います。

○鶴川委員長 暫時休憩します。

午後 2時44分 休憩

午後 2時45分 再開

○**鶴川委員長** それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

○**橋本委員** それでは、最後の1点。

実は、二、三日前に、ある保護者から電話をいただきました。内容は、今度、日生中学校の硬式テニス部が中国大会に出場することになったと。日生の中学校はテニスコートが運動場で確保できません。それで、浜山にありますテニスコートへ部活の顧問の先生が車でピストンで連れていきよる。あるいは、父兄が連れていきよるという状況なんです。それで、最近、日の落ちるのも早いということで、照明を使用する必要があると。以前は、そういうときには、学校教育の一環であるということで、照明代は無料だったと。ところが、ことしになって、お金をくれという言われよると。それを新たに部費として徴収するわけにもいかんし、顧問の先生が自腹を切つて、1万円何ぼになるという言よりました、いろいろな格好で。自腹を切るような格好になりそうなんだと。それっておかしいよねという連絡があったんです。私もそれはおかしいと。部活動というのは学校教育の一環である。しかも、教育のまち備前を標榜しとる中で、ボランティアみたいな格好でやったださる部活の顧問の先生に自腹を切らせて照明料を負担させるなんちゅうのは、これはもつてのほかじゃと。近々に委員会があるから、ぜひその件は教育委員会に言うのと。施設管理公社があそこを管理してますよね。代表者は市長ですよ。こんなことしとったら、私は笑われると思います。これが世の中に広まったら。学校が使うんですから。しかも、学校の校庭にテニスコートがないからそっちへ行く。しかも、暗くなるから照明の必要がある。従前どおり無料にするか、あるいはどうしても施設管理公社に対してお金を払わにゃならんのだったら、その予算をまた予備費かなんかで特別につけてやるというような格好にせんと、部活の顧問をまともにやってくれる先生おらんようになるよ。いかがでしょうか。

○**田原生涯学習課長** 私のほうでも把握しておりませんでしたので、ちょっと事実関係を調査して、確認をしてみます。

○**橋本委員** 生涯学習課になるんですか。学校教育じゃないんですか。部活ですから。

○**小郷学校教育課長** そういうことで困っているんだという連絡は、私のところに届いておりません。これがまず状況です。あと私のところでお答えできることは、部活動の補助金ということで、例年、各学校、生徒1人当たり幾らということで補助金を出ささせていただいております。例えば、そのあたりのところで幾らか対応して、まずは当面、もしその必要があるなら対応していただく。そのあたりは可能かと思っております。私のほうからも学校に問い合わせをして、確認をまずしてみます。

○**橋本委員** それで、頑張った結果、地区の予選を勝ち抜いて中国大会へ出場が決まったと。そしたら、途端にそういう教育委員会のほうからいただいとる予算も消化し切ってしまってお金がなくなるというようなケースもあるし、今までは、そういう夜間というんか、日没が早い今ぐらの時期は、無料で使わせてもらっていたと。それを、施設管理公社が金よこせと。これは、私はもう腹立たしいんです。これは教育委員会のほうから施設管理公社に対して、教育のまち備前なんじゃから、せえなもんを取つてもたかがしれた金額です。そんなもんぐらいは教育関係とい

うことでなしにしてよというぐらいの申し入れは、教育長、ぜひすべきじゃないかなと思うんです。久々井の運動公園はどうなっとなんでしょうか。類似して。向こうが払いよんのに、日生だけだにせえというのもおかしな話で、私は部活というのは教育の一環というふうに見ておるんで、それに対してお金を取るというのはおかしいと思うんです。

○**小林教育長** 先ほども課長が申しましたように、多分、学校教育課も生涯学習課のほうも、そういう事実で困っているということを聞いていませんでしたので、直ちに調査して、どういうふうになっているのか、どういうことができるのかを調べていきたいと思います。

○**橋本委員** よろしくをお願いします。

○**鶴川委員長** ほかにございませんか。

○**石原委員** 体育施設のほうなんですが、日生の運動公園の野球場ですが、御存じのとおり、数年来、バックネット裏のスタンドにひびが入ったりということで使用不可、それからこの間、子供さんの野球大会があつてお邪魔したんですが、バックネットも裾のほうにわたってグラウンド側に向かってめくれ上がっておるということで、かなり選手自身の危険性も高いということで、利用者、それからおいでになつたられた方からもお声をいただきましたので、お伝えをさせていただいて、来年度以降、多額の費用もかかりましょうし、老朽化している施設の見直し等も進んでくるんかもしれませんが、現状、実際に使用しておる施設でありますので、市民の利用者の声としてお届けします。御検討いただければと思います。

○**田原生涯学習課長** 日生の野球場のバックネットの件については、また調査して、対応が可能であれば、させていただきたいと思います。バックネットのほうのひび割れについては、多分すぐに対応できないとは思いますが、財源等の確保のめどができれば、あとは施設をどうしていくかという問題もありますので、その辺を考えながら、今後検討していきたいと思います。

○**鶴川委員長** ほかにございませんか。

○**星野副委員長** ちょっとICTに戻るんですが、先ほどの補正予算にも出ていました電子端末を活用した授業の教員向け研修会はいつ開催予定なんでしょうか。

○**植田教育総務課長** 直近では、冬休みにやる予定にしております。内容としましては、タブレットの基本操作、それから授業支援ソフトの基本操作というのが主になっております。

それから、それ以降、1月あたりになろうかと思いますが、それぞれのソフトの使い方、プレゼンのソフトとか英語のソフトとかといったものを使えるように支援していく予定であります。それから、2月ぐらいになろうかと思いますが、各学校にICTリーダーさんとかおられますんで、そういった方にも管理の方法とかというのをしていこうと思っております。

○**星野副委員長** 冬休みに開催される研修会は、いつですか。

○**植田教育総務課長** 12月25日と1月5日、同じものを予定しております。

○**星野副委員長** 見学することは可能ですか。

○**植田教育総務課長** それは可能だと思います。

○**星野副委員長** わかりました。もう一点。

3学期から大量の機器を使うこととなりますが、授業中、個々のタブレットの使用にふぐあいが発生する可能性があると思うんです。ICT支援員に常駐してもらうわけにはいきませんし、担任だけでは対応し切れないと思います。そこで、支援員とは別に、授業中に児童や生徒をサポートする補助支援員、これを先ほどから話に出ています支援地域本部のボランティアですとか、まなび塾の支援員のように、少額の報酬を払ってやっていただくという考えはないんでしょうか。

○植田教育総務課長 今のところはありません。

○星野副委員長 ぜひ検討をしてみてください。

○植田教育総務課長 専門の支援員の方をお願いする予定にしておりますので、ボランティア的などいいでしょうか、機械操作等の支援員さん、予算も要りますんで、今のところは考えておりません。

○星野副委員長 その支援員さんが、やはり常駐できないわけです。1時間のうちに、タブレットを使っていて、A君のタブレットが動かんようになった。だったら、先生はその子につきっきりになるわけです。先ほど、予算の面もあると言われたんですけど、予算がないのであれば、そこを支援地域本部のボランティアさんに補助、そんな専門的な知識の支援をしてくれというわけじゃないんです。本当に補助でついてもらうという考えをちょっと持っていたきたいなというのがあるんですけど。

○小林教育長 星野委員さんのおっしゃるとおりだと思います。ただ、導入したときに、学校の先生自体も何を支援してほしいのかと。いつ来てほしいのかと。その見通しが無いと思いますので、使い出して、本当に実際どういう支援が欲しいのか、いつどのぐらいのマンパワーを投入していただくと、その先生自身、授業がしやすくなるのかとか、使っていく中で、本当に学校の中に入っていたら有効だなというような声がありましたら検討していくと。まず、何を支援してもらおうかというところの実態把握がもう少し学校側もできないかなと思いますので、またお待ちください。

○鵜川委員長 ほかにございませんか。

○立川委員 済みません。今のお話で、御存じのとおり、文科省の教員のICT活用指導力のチェックリストがあると思うんですが、小学校版、中学校版、各5項目でしたか。できるからややできる、4段階で教員そのものがチェックされていると思うんですが、それを見せていただくと、備前市はすばらしいんです。最初の教材研究、指導準備、評価、活用する能力がありますかと。全国平均が80%ちょっとなんですけど、備前市は100%近いんです。ということは、教員のレベルは、そんだけ指導力については上がっていると理解したらいいんですね。本当にそうなのか。ちょっと確認を。私が聞いている教員さん、5人ほどいらっしゃるんですが、皆この範疇に入らないんですけども。教員のレベルはすばらしいというふうに解釈しますが、それでよろしいですね。

○小郷学校教育課長 これはもう例年実施しているとおりで、こちらのほうから何かできてないからどうだこうだというようなことではなくて、もう少しその点について詳細を申しますと、例

えば教材研究、指導の準備、評価など、ICTに活用する能力の項目で、4問あるんですが、授業で使う教材や資料などを集めるためにインターネットやCD-ROMなどを活用する。これを割にできる、ややできる、余りできない、ほとんどできないというその4つの項目で先生が自己評価をしています。自己評価の中で、少しは、1年間の中で例えば5回ぐらいやっていたのを、まあそういうところからできるかなと感じていくのか、または自分に大変厳しくいくのか。そのあたりによっても、この評価というのは大きく変わってくると思います。今回集計した結果がこういう結果だったという理解をしています。プラス、備前市で50インチのモニターとか、各教室に教育用パソコンを普通教室に整備したこと。このことで、ドラスティックな改革が2年前から備前市では起こっていますので、ある程度、備前市の先生にこういう高い数字が出るというのは、これは想定はしておりました。ただ非常にこちらもちよっと高いなということは、正直に思ったところがあります。

○立川委員 ありがとうございます。じゃあ、私がお会いした5人の先生は、これの0.1とか0.5%の範囲内の先生だと思しますので、レベルを上げるように、私からも言いますが、くれぐれもそのレベルのほうはよろしくお守りくださいますように。このチェックも時々してください。よろしくお願いします。

○小郷学校教育課長 このチェックリスト活用等はさせていただきます、また研修に努めてまいります。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、所管事務調査を終わります。

以上で厚生文教委員会のうち、教育委員会関係の審査を終了いたします。

これをもちまして本日の厚生文教委員会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

午後 3時02分 閉会